

## 令和5年度第1回高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議・ 高知県 ICN ネットワークの会 要旨

日 時：令和5年7月24日（月）18:30～20:30

会 場：Web 開催（高知共済会館 3階「桜」）

出席者：ネットワーク委員 13名、ICNメンバー 14名

### 議事

#### (1) 令和4年度新型コロナウイルス感染症の相談対応事業について

<報告1>

事務局より令和4年度新型コロナウイルス感染症の相談対応事業について報告

##### ①高知県医療関連感染対策相談対応事業の手順について

- ・相談対応の手順は、昨年度から変更なし。
- ・福祉保健所等と感染管理の専門家との連携においては、基本的にはエリア内での対応を考えているが、新型コロナウイルスの感染拡大時には、エリア内での対応が難しい場合もあり、エリア外の ICD・ICN に対応していただいた事例もあった。

##### ②令和4年度高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業の実績報告について

- ・昨年度は医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議と ICN ネットワークの会を定例会1回、臨時会を1回開催した。
- ・エリアネットワーク事業については、高知市エリアで検討会と研修会、中央西・須崎エリアで研修会を開催した。
- ・高知県医療関連感染対策研修会については、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。

##### ③新型コロナウイルス感染症におけるクラスターの発生状況について

- ・昨年度は第6波～8波の3つの大きな感染の波があった。クラスターの発生状況としては、高知市エリアでは医療機関と高齢者施設でのクラスターの割合は同じくらいだが、その他のエリアでは高齢者施設におけるクラスターの割合が多くなっていた。

##### ④専門家派遣実績について

- ・令和4年度は30回の実地支援を行った。そのうち、新型コロナウイルス感染症のクラスター対応への実地支援が27回（医療機関15回、福祉施設12回）であった。

<報告2>

川村委員、山岸委員、笠原 ICN、川野上 ICN より相談対応取組事例について報告

#### 【川村委員】

- ・5カ所に支援を行ったが、支援の中で重視したのは迅速性。その施設で可能な範囲での感染対策の提案を心がけ、文章化してなるべく当日、もしくは翌日には具体的な方策に

ついて連絡した。

- ・大変だった点は、施設によって特徴が異なるので、個別対策の必要があったこと。
- ・良かった点は、クラスターが発生する前に訪問し、打ち合わせていたことが、クラスター発生時に打ち合わせ通り対応できていたこと。

#### 【山岸委員】

- ・4施設を訪問。陽性者が多い状況だったので、支援者が暴露しないことも重要であった。
- ・それぞれの事案に関して正しい状況を把握し、患者の特性や建物の特徴を考慮し、できる範囲のことを徹底して行ったことで収束につながった。
- ・事前に質問を頂いていたことにより具体的な支援ができた事例もあった。

#### 【笠原 ICN】

- ・どの施設も支援により不安解消につながり、再発が防止できた。
- ・実地支援に行くことにより、現場の声を聞きながらの対策・支援が大事だと感じた。
- ・支援を評価するシステムの構築、支援後も施設と継続した関わりがもてる体制、エリアを越えた対応などができればと思う。

#### 【川野上 ICN】

- ・各施設の具体的な状況把握をし、困っている内容に沿って指導した。
- ・不慣れな PPE 着脱による感染が見られたため、具体的に指導した。
- ・平常時の感染対策、感染者発生時の院内感染防止対策等について助言を行った。

#### <委員・ICNからの質問・意見等>

(森田 ICN)

- ・県からもらった防護服をそのまま使っていた施設があり、首回りのビニールに切れ目がないため切れず、脱ぐ動作が難しいという意見があった。

(中央西福祉保健所 平松課長)

- ・国から一定量の配布があり、数の希望を聞いた上でその都度配布していた。具体的にどういう防護服であったかということまでは把握していない。

(北村会長)

- ・先程の意見を参考にして、次回は確認して配布していただければと思う。

### (2) 令和5年度高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業について

#### <説明>

事務局より令和5年度高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業について説明

- ・高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議・高知県 ICN ネットワークの会については定例会として年2回開催し、必要時には臨時会議を開催する。
- ・エリアネットワーク活動については、全エリアで拠点病院と福祉保健所等が協働し、ネットワーク活動に取り組んでいただきたい。

- ・高知県医療関連感染対策相談対応事業については、昨年度に引き続き、医療機関等から要望があれば活用していただきたい。
- ・高知県医療関連感染対策研修会は年1回開催予定。研修会の内容について、この後ご意見をいただきたい。

<委員・ICNからの質問・意見等>

(山岸委員)

- ・地域 AMR 協議会というのはすでに存在しているのか、これから設置するのか。さらに AMR 対策ワーキングというのが別にあるということか。

(八木委員)

- ・モデル事業の一環として地域 AMR 協議会を設置したが、開催されていない。その中のワーキングとして、昨年度 AMR 対策ワーキングを1回実施した。様々なことを協議する機会として考えている。

(山岸委員)

- ・抗菌薬適正使用推進モデル事業はあくまで AMR 対策の一つであり、大きな括りの中に AMR 対策協議会という名称で、もう少しいろいろな分野から協議できればよいのではないか。

(北村会長)

- ・八木委員は薬剤師の立場であり、細菌検査部の立場ですと近森病院の森本委員がいらっしゃる。

(森本委員)

- ・各病院からの耐性菌の状況、感受性率の推移を提供してもらい、まとめてきた。今後も継続していく。

(山岸委員)

- ・そういった情報はネットワークのメンバーは知ることはできるか。

(八木委員)

- ・サーベイランス結果については今回 2020、2021 年度について報告する。それ以前のものについても、すべてこのネットワーク会議で報告している。

(山岸委員)

- ・遺伝子検査が普及しているが、高知県の状況を教えていただきたい。

(森本委員)

- ・当院（近森病院）では遺伝子検査があまりできていない現状である。

(山岸委員)

- ・遺伝子検査をやっている病院があれば、そこで他病院も検査ができればいいのではない

かと思った。

(森本委員)

- ・当院でも遺伝子検査があまりできていない状況なので、多くの施設ができていないと思う。検査も色々な方法があるので、それも統一できていない状況である。

(山岸委員)

- ・高知があまりできていないというのが良く分かった。初動が取れるようにすると県内での広がりを抑えることができると思い提案した。

(山岸委員)

- ・専門家による研修会とは AMR がテーマということか。県として何をフォーカスするのか。専門家とは具体的にどのような方を指すのか。

(事務局)

- ・こちらでは腹案を持つ状況ではないので、この会で意見をいただいたことを含めて、それをもとに北村会長とも相談し、考えていきたい。

(山岸委員)

- ・知っている範囲であれば声かけできる。実際に感染対策を行えるとなると、医師や看護師で取り組みをされている方がいると思う。

(北村会長)

- ・地域支援ネットワークの能力の底上げということで、地域の皆さん方のレベルアップを目的としている。地域を支える形で講演して頂くので、あまり専門性に特化した方の話でなく、各医療機関の方が聞いて実際に行動できる内容でと思っている。研修会の対象者によってそれぞれ違う内容になる。AMR、5 類になってからのコロナ対応など、ご意見を参考にして事務局ともすりあわせをし検討していきたい。

(川村委員)

- ・実践形式で、ゾーニング方法をみんなで考えるというのもありではないか。

### (3) 抗菌薬適正使用推進モデル事業について

<報告>

八木委員より 2022 年度の抗菌薬適正使用推進モデル事業の活動について報告

- ・高知県における 2020 年、2021 年分の抗菌薬使用量及び薬剤感受性率の分析を行った。
- ・対象抗菌薬は注射用カルバペネム系抗菌薬、注射用・経口用フルオロキノロン系抗菌薬、注射用広域ペニシリン系抗菌薬
- ・対象施設は中部地域 2 施設、西部地域 7 施設であった。

<委員・ICN からの質問・意見等>

(山岸委員)

- ・大腸菌のキノロン耐性について、次年度以降はESBLの有無も考慮していただけると良いのではないかと。
- ・ゾシンの使用量は全体的に増加しているが、大腸菌の耐性率が下がっている要因は何か。  
(八木委員)
- ・大腸菌の耐性率が低下している要因については、今後議論が必要である。

<説明>

八木委員より 2023 年度の活動計画について説明

- ・2022、2023 年分の抗菌薬使用量及び薬剤感受性の調査・解析を実施する。
- ・サーベイランスの解析結果については、年度末までに成果報告書を作成し、県内の医療関係者にフィードバックするための研究会を開催する。

<委員・ICN からの質問・意見等>

(川村委員)

- ・今回は中央 2 施設と西部 7 施設での結果であるが、今後、医療機関も人口も集中している中央部の参加施設が増える予定はあるか。

(八木委員)

- ・今後、参加施設を増やしていくことも考えている。

(北村会長)

- ・この報告書、計画書は文書として委員にメール送信またはどこかに公表予定はあるか。

(八木委員)

- ・委員には、この会議の追加資料で公表させていただく。県全体への公表の方法については教えていただきたい。

(北村会長)

- ・このメンバーだけでなく、高知県全体に現在の状況をお知らせするという方法を検討したいので、皆さんとも相談させてほしい。

(4) 令和 5 年度高知大学医学部附属病院認定看護師教育課程 (B 課程) の開講について

<説明>

山岸委員より令和 5 年度高知大学医学部附属病院認定看護師教育課程の開講について説明

- ・高知県は人口当たりの ICN 数が少なく、その現状がコロナ禍で浮き彫りになった。ICN 養成に関するアンケートでも、できるだけ早く設立してほしいという声が多かったため、来年度を待たずに開講することとなった。
- ・今年度は 4 月末に受講生決定、7 月 4 日開講式を行った。
- ・今後の予定としては、9 月末までは特定行為研修の e ラーニングを行い、10 月から感染

管理に関する研修が始まる。年明けからの2ヶ月間で実地演習を行い、3月にケースレポートを発表し、6月末卒業となる。実際のICNの試験は10月であるので、教育課程終了後も学んだことを忘れず、モチベーションを保っていただくことが必要である。

<委員・ICNからの質問・意見等>

(成瀬委員)

- ・研修生は8施設から9名の参加である。慢性期の病院からも参加があり、高知県の感染管理の底上げにつながると考えられる。
- ・県にお願いだが、今回15名の枠に9名の参加であったので、来年度の公募をしっかりとしていただき15名を満たしたい。

(北村会長)

- ・ネットワーク会議でも支援していきたい。

#### その他協議、連絡事項

(森田 ICN)

- ・診療情報で耐性菌が出ているという記載がある場合、いつ、どこの検査であるか、どういう感受性であるのかを紹介状に書いていただきたい。

(川村委員)

- ・G-MISの情報はどれくらい正確なのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・G-MISについては各病院、診療所に毎日入力をお願いしているが、入力したかどうかを確認することはできていない。後から分かった分は追加で入力することがあると思うので、常に1日の終わりのリアルタイムの情報は把握できない。

(川村委員)

- ・月単位で変わっていないところがある。どこにどれだけ入院しているかを知るには、G-MISしかないので1週間変わっていなかったら県の方から入力を催促して頂きたい。

(事務局)

- ・入力については催促しているが、本日の提案を受けて対応していきたい。